



3年間を振り返って①…自分の思いや考えを表現できる児童の育成

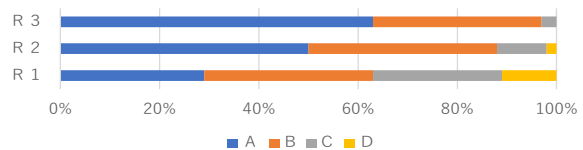
学校だより発行も残すところあとわずかとなりました。最後のわがままになりますが、今回から3回に渡って「3年間を振り返って」をテーマに書かせていただきます。(最後までひとりよがりです。申し訳ありません。)

思い起こすと3年前、本校勤務を命じら、地元の小学校で最後の勤務ができる喜びと責任の重さを感じたのを思い出します。それから10日余りで、北浦小の強みと課題について、教育活動に関するデータを数値データをもとに分析し、平成31年4月1日を迎えたことを今でも忘れません。また、保護者の方に津澄小・北浦中に勤務していたときの教え子が多いこともより責任を感じたことでした。

北浦村に生まれ・育った自分として、北浦地区の人は「内弁慶で、自分の思いや考えを表現することが苦手で、間違いなく大丈夫だと感じないと自分の考えを述べない。」といった傾向があると感じていました。そこで、授業や学校・学年行事を通して自分の思いや考えを発表・表現する場を意図的に設けるようにしました。「間違ってもいいから発表しよう」と声を

かけても児童はなかなか発表しませんでした。そこで、ペアやグループで話し合う時間を設けて、自分の考えに自信がもてるようにして発表することからスタートしました。また、始業式や終業式の代表児童の発表もできるだけ書いたものを読むのではなく、何も見ないで自分の言葉で発表するようにしていきました。先生方も毎日の授業や学校・学年行事で、多くの児童にそのような場を意図的に設け、実践してくれたおかげで、3年間で「自分の思いや考えを表現できる児童」の割合は下のグラフのように大きく進歩しました。

「北浦地区の子供たちをどう育てていくか」その取組の視点を明確にして取り組んだ成果の一つです。今後、その力が中学校以降の生活に結びつき、さらに成長していってくれることが大きな願いです。



コロナ禍の中、何事にも前向きに取り組んでくれた「6年生」へ

「感謝」、そして次のステップへ

校長 武田 民弥

昨年度・今年度と新型コロナウイルス感染対策に追われた2年間でした。そうした中、6年生はあと14日で卒業を迎えます。今年度も感染予防のため、卒業式会場（体育館）には在校生は入れず、会場には卒業生と保護者、代表職員、来賓のみの参加となります。1～5年生は教室でモニターを通して式に参加する形式を計画しています。卒業式の様子をモニターを通してですが体験することは、北浦小学校の一員としてとても大切なことだと考えます。



さて、6年生の皆さんとは3年間の学校生活でしたが、「ひとはだめごう北浦小～NEXT～」のテーマのもと、「進んで」をキーワードとして、いろいろな活動の中心となって学校を引っ張ってってくれました。本当にありがとうございます。学校行事では、6年生が中心となって「日光宿泊学習」、「感動ある運動会」を実施することができました。「校内陸上記録会」、「持久走大会」も一人一人がもてる力を発揮してくれました。その一つ一つの姿が必ずや後輩たちに引き継がれ、「伝統」になっていくことと思います。

6年生の皆さんと一緒に過ごすのもあと14日。18日の卒業式が最後になります。最上級生として、北浦小学校の顔として取り組んでくれたこの一年間で、「自分でもやればできるんだ」「自分にもこんな可能性があるんだ」ということを少し理解することができたことと思います。しかし、その一方でまだ課題もあります。「場に応じた言動」です。皆さんは「北浦小の顔」。本校の代表である皆さんが、きちんとしなければならぬ場で、笑い声をあげたり、わざとふざけたりすることを目にするがありました。「中学生になるのに…」と言われても仕方ないかもしれませんが。私から卒業生への最後の助言・忠告です。

18日の卒業式では胸を張って、多くの方に成長した姿を見ていただきましょう。私にとっても最後の卒業生となります。一人一人に心を込めて卒業証書を手渡したいと思います。

